

Q2 公共交通体系の検証及び今後の考え方について

公共交通体系の今後は？

問 東部3地区を中心としたコミュニティバスの運行実績及びやおつトンネル開通に伴う公共交通体系の今後のあり方について伺うとともに、地理的な移動制約を被っている地域での移動を補完する手段として、過疎地有償など超高齢社会での公共交通の考え方について伺う。

答 (藤本産業課長)

コミュニティ802バスの運行実績ですが、利用者は1年目が9,739人、2年目が10,053人と312人の増加となり、1日あたりにしますと約41人の利用があります。2年前の路線変更前と比べますと、年間平均の一般利用者は、3,866人でしたので、約2.6倍の利用増加となっています。1回200円の運賃、フリー乗降、高齢者にやさしい低床型車輛、時刻表は分かりやすく、各交通網への連結時刻にも配慮されており、また八百津や川辺で買い物、通院などの用事を済ませる場合、2時間前後の時間をとれることから、利用者の皆さんに喜ばれています。

り名鉄広見線が大変近くなり、バスを運行させたらどうかという声があります。道路状況もよく乗車時間も八百津から10分程度ですので、理想的な経路といえます。しかし、YAOバスの運行もあるため、単なる利用客の分散になってしまうのではないかと心配があります。今後御嵩町とともに両町を結ぶ公共交通について協議していくことになると思いますが、利便性、高校生を含めた利用者の乗車状況、効果的な観光活用など、その対象と目的、運行方式も含め、YAOバス、802バスなど、すでにある交通体系との調整もあわせて総合的に検討していきたいと考えています。

次に先進地域を踏まえた高齢化社会における公共交通の在り方についてですが、議員おっしゃるように、熊本市では、交通権の理念を尊重し、

- ① 「行政の責務」
- ② 「公共交通事業者の責務」
- ③ 「事業者の責務」
- ④ 「住民の責務」

など、それぞれの役割と責務を明確にし、まち全体で公共交通を支える取組みを行っています。また、本年10月から恵那市飯地地区で始まった公共交通空白地有償運送「いいじ里山バス」の取組は、バス利用もタクシー利用もほとんど無く、バス会社からは運転手の確保が出来ないた

め、自主運行バスからの撤退を求められているという地域の実情があり、地域の足をどうしていかうかという飯地地区の自治組織やボランティアのみなさんが中心となり始まった取組もあります。

現在、802バスは、東部地区の皆さんにも貴重な足として利用されています。タクシートの利用もありますし、NPOによる福祉有償運送もあります。町としては、自分の間現在の状況を継続し、住民の足を確保しながら、今後さらに進む高齢化社会に向けた施策を、町のみならずの協働により考えながら、出来るだけ自家用車に頼らない公共交通利用のPRと意識作りを図っていきたいと思います。

次に「コミュニティバスの恩恵を受けていない住民」につきましては、バス路線は主要路線を走っていることから、バス停に遠い方にはどうしても不便があります。また、「公共交通利用が困難な方と一般住民の方との不公平感の是正が成されていない」ことにつきましては、802バスで移動できる方は、運賃200円のみで済むことから、確かに負担の差があります。こうしたことにつきましても、他市町村の動向を研究しながら、現在の交通体系を検証すると共に、最も効果的な交通体勢のあり方、仕組み、新たなサポート

体制について検討していきたいと考えています。

問 現在のコミュニティバス802は、福祉バスの要素が強く更なる創意工夫の対応がなければ、現状での交通体系は不適切であると思うが町の考えを伺う。

答 (藤本産業課長) 802バスは、以前はスクールバスの役割が大きく、一般乗客にとつて複雑かつ利用しづらい運行体勢だったことから、全面的な見直しを行い、平成26年10月から現在の体勢で運行を始めました。そこに至るまでには、様々な検討を重ね練り上げた見直し案を、広報やおつで全町民のみなさんに開示し、アンケートの意見をできる限り取り入れながら作り上げてきた経緯があります。決して不適切な交通体系とは考えていません。

しかし、議員ご指摘の、空白地や交通弱者への取組、高齢者等の声や分布調査、バスに乗るまでのサポートづくりの検討など、当然考えていかなければならない課題があることは事実です。さらに、やおつトンネル開通による交通体系の検証や、町内の各施設を結び生活をサポートできるルートなどについても、今後検討する必要があると思います。また、創意工夫の措置対応ということですが、公共交通は道路交通法というきまり

の中で、また公共交通事業者や関係者などの理解と同意のもとに動いていることから、具体的な方策をここでお示しすることは出来ませんが、地域によっては、アイデアと工夫で独自の運行にこぎ着けたところもあります。今後は、地域のみなさん、事業者、関係者のみなさんと共に考え、共に作り上げていく必要があると考えています。また、公共交通等利用のPR・意識作りを進めていくことは、現状でも必要と考えていますので、実施していきたいと思えます。

